

昭和37年秋季年会（水沢）

講演予稿集

於 水沢緯度観測所

日本天文学会

日本天文学会 1962 年秋季年会 プログラム

◇日時 昭和 37 年 10 月 10 日(水), 11 日(木)
◇会場 岩手県水沢市 緯度観測所

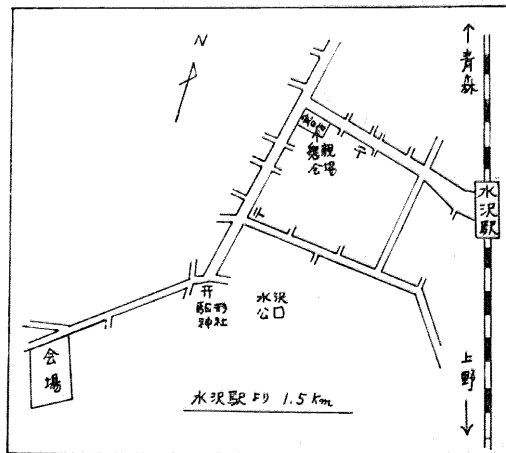
	午 前 (9時より)	午 後 (1時より)	夜
10 日 (水)	研 究 発 表	研 究 発 表	懇 親 会
11 日 (木)	研 究 発 表	研 究 発 表	

講演予稿集について：特別会員には1部ずつ無料で配布しますが、その他の方および特別会員で2部以上希望される方は1部につき実費 50 円，送料 10 円をお送り下さい。年会の当日会場でもおわけします。

☆ 10 日(第1日)の昼休みに
理事会を開催いたします。

☆ 講演数が多いので、お申込の
所要時間を減らしたのがあり
ます。御諒承下さい。

☆ 講演時間はお守り下さい。



第 1 日 10 月 10 日 (水)

[午前] (9時より)

分

1. 弓 滋, 後藤 進 (緯度観測所): 天頂儀による緯度観測整約の問題点……………10
2. 須川 力, 古川麒一郎 (緯度観測所): 直交座標を用いた恒星の視位置計算……………10
3. 須川 力, 古川麒一郎 (緯度観測所): 緯度観測 (1955~61) から連鎖法に
より求めた赤緯および固有運動補正について……………10
4. 若生康二郎 (緯度観測所): 連鎖法と Z 項法……………10
5. 高木重次, 角田忠一 (緯度観測所): 局地 Z 項について……………10
6. 松倉秀夫 (仙台管区気象台): 大気循環と緯度変化の関係について……………10
7. 関口直甫 (東京天文台): 極運動の減衰係数……………8
8. 関口直甫, 根道文子 (東京天文台): 模擬極軌道図との比較による極運動の
性質の研究……………7
9. 高木重次, 角田忠一 (緯度観測所): PZT による時刻観測から求めた極運
動について……………10
10. 飯島重孝, 岡崎清市 (東京天文台): 時刻観測の材料による極軌道の解析 (Ⅲ) ……10
11. 飯島重孝, 岡崎清市 (東京天文台): 地球自転速度変化の最近の傾向について……………10
12. 安田春雄, 深谷力之助, 原 寿男 (東京天文台): 周極星の観測……………7
13. 飯島重孝, 藤原 清, 虎尾三春 (東京天文台): 超高層核実験の長波位相変
動への影響……………5
14. 虎尾正久, 吉成正男, 嵩地 厚 (東京天文台): PZT 電接装置について……………5

[午後] (1時より)

15. 上田 稔 (京女大): 暦表時から派生する諸定義について……………10
16. 原田健久 (国土地理院): 長距離測地線に関する第二課題の一解法……………7
17. 広瀬秀雄 (東京天文台): 人工衛星の精密同時観測について……………5
18. 下保 茂 (東京天文台): 188 cm 反射望遠鏡による恒星位置観測の精度……………7
19. 堀 源一郎 (東大理): 人工衛星の運動における太陽輻射圧と地球の形状に
よるレゾナンスの問題……………10
20. 芝原鏡一, 吉田淳三* (仏教大学, *岐阜医大): 三体問題における Birkhoff-
Merman 型諸定理……………10
21. 宮原 宣 (水路部): 4 体問題の解のある場合, 制限 4 体問題について……………10
22. 宮本正太郎 (京大花山天文台): 月面周辺の海について……………10
23. 宮本正太郎 (京大花山天文台): 火星の地形と気象学的現象……………7
24. 田鍋浩義 (東京天文台): 黄道光観測において大気光成分を差引く一方法……………7

分

25. 石田憲一, 松波直幸 (東京天文台): 高速度星の遠銀点と近銀点との関係……………10
26. 江本祐治, 吉田淳三 (岐阜医大): 白色矮星の空間密度について (II) …………… 5
27. 石田憲一, 松波直幸, 堀源一郎* (東京天文台, *東大理): ポテンシャル
V_H による銀河軌道の解析……………10
28. 堀源一郎 (東大理): ポテンシャル V_H における第3積分と速度楕円体…………… 7
29. 堀源一郎, 劉彩品 (東大理): ポテンシャル V_H における3次元ポット
リングー図…………… 7
30. 大脇直明 (水路部): 球状星団の半径の変化 (II) ……………10
31. 藤本光昭 (東北大): 棒状銀河系について (II) …………… 8
32. 宮本昌典 (東京天文台): 不均一廻転楕円体内における円運動の不安定領域…………… 8
33. 石田憲一, 宮本昌典 (東京天文台): 渦巻星雲の構造と不安定領域……………10

第2日 10月11日(木)

〔午前〕 (9時より)

34. 松丸 勝 (防衛大理工学研究科): 宇宙空間用電子観測装置の概要……………10
35. 渋谷暢孝, 森本雅樹 (東京天文台): 電波干渉計に使用するアンテナ系につ
いて (II) ……………10
36. 森本雅樹, 渋谷暢孝 (東京天文台): 三つのアンテナで二方向の位置をはか
る電波干渉計……………10
37. 土屋 淳, 鰐目信三* (東京天文台, *東大理): I型パーストの偏波……………10
38. 鰐目信三 (東大理): III型パーストの偏波……………10
39. 森本雅樹 (東京天文台): 45~60メガにおけるIII型パーストの高さについて…………… 7
40. 森本雅樹 (東京天文台): メートル波パーストの指向性について…………… 7
41. 森本雅樹 (東京天文台): 活動領域のかなり上空のコロナについて……………10
42. 高倉達雄 (東京天文台): デシメートルIV型パーストの電波スペクトル……………10
43. 内田 豊, 河崎公昭* (東大理, *東京天文台): IV型パーストの発生機構に
ついて…………… 7
44. 守山史生 (東京天文台): メートル波太陽電波の enhanced radiation について……………10
45. 斉藤國治, A.E. Covinton* (東京天文台, *National Research Council,
Ottawa, Canada): 10 cm 波パーストを伴う太陽フレア領域の微細構造……………10
46. 田中利一郎 (新潟大): 非熱的S成分源の寿命について……………10

〔午後〕 (1時より)

47. 野島幸雄, 岡本富三 (東京天文台): K_2-s Calcium Plage と太陽電波 1420 Mc
との関係について…………… 7
48. 西 恵三, 中込慶光 (東京天文台): コロナ輝線と太陽電波 1420 Mc/s と
の関係について (II) …………… 7
49. 浜名茂男, 深津正鉄 (東京天文台): Flare, Yellow Corona, SWF の相互
の関係について…………… 7
50. 積田寿久, 水垣和夫, 鈴木利和 (東京天文台): 太陽面の活動中心とフレア
について…………… 7
51. 野村常雄, 堀井政三* (京大理, *生駒山太陽観測所): quiescent prominences
附近のコロナ……………10
52. 平山 淳 (東京天文台): 静止紅炎のモデル…………… 7
53. 日江井榮二郎 (東京天文台): 彩層の連続スペクトル…………… 7
54. 末元善三郎 (東京天文台): 彩層の乱流……………10
55. 牧田 貢 (東京天文台): 黒点暗部のモデル……………10
56. 牧田 貢, 森本雅樹 (東京天文台): 昼間のシンチレーションについて……………10
57. 山下泰正 (東大理): M型星の低分散スペクトル……………10
58. 藤田良雄 (東大理及び東京天文台): 炭素星の赤外域スペクトルの比較研究……………10
59. 藤田良雄 (東大理): Y CVn の等価幅について……………10
60. 上条文夫 (東大理): 半規則変光星の脈動のモデル…………… 7
61. 上西啓祐 (熊本大理): 白色矮星の冷却について…………… 5
62. 海野和三郎, 畑中武夫 (東大理): 銀河星団における質量関数について……………10
63. 下田真弘, 海野和三郎 (東大理): 星雲間の凝縮 (I) ………………10
64. 海野和三郎, 加藤正二 (東大理): 大気乱流からの音波の発生 (III) ………………10
65. 加藤正二 (東大理): 大気乱流による音波の散乱…………… 8